

市民が主役の充実した政策を軸に 地域の力を引き出すまちづくりを

妊娠期からの継続的支援と
子どもの自主性を育む教育で
安心できる子育てを実現

就任以来、子育て世代が望むまちづく
りをテーマにされていますね。

千葉市では待機児童対策や男性の育
児支援など、市民の立場に立った子育
て政策を実施してきました。全国的に
珍しいのは、幼稚園入学前の子ども



熊谷 俊人 市長

1978年生まれ。早稲田大学政治経済学部を卒業後、NTTコミュニケーションズに入社。一新塾を経て、2007年に千葉市議選に初当選。2009年に千葉市長選挙に出馬し、31歳の全国最年少記録で市長に当選した。現在は3期目で、SNSなどを駆使した新しい政治のスタイルを展開している。

いる方々を対象とした預かり事業に対
する助成で、多様な家庭環境に応じた
サービス提供をめざしています。

さらに妊娠期からの切れ目ない支援
を強化するため、今年度より「母子健
康包括支援センター」を開設。保健師
が支援プランを作成し、産後も含めサ
ポートします。また、家庭訪問や産科
医療機関等への宿泊を通じ、助産師が
授乳指導等の産後ケアを実施します。
私も子育て世代の当事者として、
出産に不安を感じる方の気持ちはよ
くわかります。だからこそ、このま

ちで安心して子育てができるよう支
援を継続していきたいですね。
子どもの成長をサポートする取り組み
も充実しているのが印象的です。

「子育てしやすいまちづくり」親支
援」ではありません。子どもたちが住
みたいまちにするためには、自主性を
育み、意見を取り入れることが不可欠。
そのため、「こどもの参画推進事業」と
して、こども市長選挙などを通じ、子
どもが社会参加について学ぶ機会を設
けてきました。さらに今年度からこど
も・若者市役所を組織し、地域の課題
解決やまちづくりに生かす予定です。

また、子どもが地域貢献できる
フィールドも用意しています。応急
ジュニアインストラクターや認知症
キッズサポーター養成講座もその一
環。自分に何ができるか考える機会に
してほしいと願っています。

市民のマンパワーを生かして
地域の健康づくりを推進し
健康で長く暮らせるまちに

市民の健康づくりにおいては、どんな
取り組みをされていますか？

健康づくりは、千葉市が非常に力を
入れている分野です。新たな取り組み

としては、若年層へのピロリ菌検査の
実施や、「生涯現役応援センター」の設
置が挙げられます。同センターは、高
齢者の就職先やボランティア先などの
情報提供を一括して行う窓口。社会と
つながり充実感を得ることは、健康維
持の上でも重要ですので、ぜひ多くの
方に利用していただきたいですね。

他にも高齢者に対しては、健康寿命
の延伸に向けて幅広く取り組んでいま
す。中でも自慢は、介護予防の指導者
として活躍するシニアリーダー。今や、
地域の健康づくりに欠かせない存在で
す。一見、行政主導の施策のほうに効
果的ですが、市民のマンパワーを生か
すことで、結果的により多くの人に浸
透していくのです。地域の力を引き出
すことは、私たちのまちづくりの基本
理念ですから、今後も市民が主役の取
り組みを考えていきます。

子育て世代の読者や市民の皆さまに向
けて、メッセージをお願いします。

千葉市では、子育て世代はもちろん、
あらゆる世代が健康で長く暮らせるま
ちづくりをめざしています。その一環
として、3年後に開催されるオリン
ピック・パラリンピックにおいては、
競技会場都市として、市民の皆さんが
スポーツを通じて地域交流のできる、
各種イベントを企画しています。この
機会にぜひ一緒に体を動かし、地域皆
で健康づくりをしていきましょう。